

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	10
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		4
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		7
1. その人らしい暮らしの支援		5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		23

事業所番号	1470901438
法人名	医療法人 寛栄会
事業所名	高齢者グループホーム カメリア弐番館
訪問調査日	令和5年12月6日
評価確定日	令和6年2月16日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は23項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901438	事業の開始年月日	平成17年12月1日	
		指定年月日	平成17年12月1日	
法人名	医療法人 寛栄会			
事業所名	高齢者グループホーム カメリア式番館			
所在地	(223-0057) 横浜市港北区新羽町4092-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和5年11月27日	評価結果 市町村受理日	令和6年2月21日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カメリア式番館は、竹林や畑などに囲まれた緑豊かな環境の中に立地している。四季を通じて季節を肌で感じる事が出来る。天気の良い日には気分転換と運動を兼ねて散歩に出かけ、体力低下予防とともに地域社会と触れ合う機会を設けている。毎日の生活に関わることは、すべて入居者が主体的に関われるよう援助している。個人差のある心身機能の中で一人一人の出来る事、やりたいことを実現できる場を生活の中で提供し、生きがいや達成感を感じる事が出来るよう力を注いでいる。ホームで行う誕生会やクリスマス会などの楽しみも生活に取り入れている。また、入居者については、同法人の医師・看護師・管理栄養士・リハビリ担当者と相談し合えるサポート体制がある。年々変化していく入居者の状態に寄り添いながらその方の可能性や残存能力を活かし、入居者にとってより良い生活を念頭においた支援をしていきたいと考えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和5年12月6日	評価機関 評価決定日	令和6年2月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は医療法人寛栄会の経営です。同法人は、介護老人保健施設カメリアを中心に、併設の居宅介護支援センター・診療所・障がい者グループホーム・高齢者グループホームを2事業所経営しています。法人本部の介護老人保健施設が徒歩圏内にあることから、医療・介護の協力及び災害時等には相互に助け合うことができることも法人経営の強みとなっています。ここ「高齢者グループホームカメリア式番館」は、横浜市営地下鉄「新羽駅」から徒歩15分程の、竹林や畑に囲まれた緑豊かな環境の中にあり、時期に応じて四季折々の自然の移り変わりを感じることもできるのも特徴の1つとなっています。さらに、建物はウッドデッキを中心に2棟の建物が建ち並ぶ平屋建ての造りで、両ユニット間を行き来することも出来ることから、有事の際には相互に協力しやすい構造になっています。

●事業所では、毎年4月に年間目標を定め（今年度は3項目）、年度はじめの職員会議で職員と共有しながら、年間を通して目標を達成できるように取り組んでいます。管理者は「寄り添った介護」を基本方針とし、入居者の「個性・言葉・思い」を受容しながら、穏やかに過ごしていただける生活環境の場を整え、一人ひとりの個性や残存能力を活かし、より良い生活を送っていただけるよう支援しています。

●外出できない期間が長期化したことで、この数年は事業所の中で「楽しんでいただく」方法をテーマに職員間で検討した結果、「食事」支援に注力して取り組んでいます。年2回のデリバリーや、不定期で移動パン屋に来ていただいたり、パイキング、手作りおやつ（スイートポテト、ホットケーキ）など、五感を使って食事を楽しんでいただけるようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	高齢者グループホームカメラ式番館
ユニット名	A棟

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基づきホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人ひとりの個性を大切にサービスを行っている。	法人の理念「尊敬・慈愛・親切」を玄関に掲示し、職員の出勤時や来訪者の目に留まるようにしています。管理者は毎年4月に事業所目標を立て（今年度は3項目）、年度はじめの職員会議で職員と共有しながら、年間を通して目標を達成できるように取り組んでいます。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入をしている。町内会の催しでは、感染症拡大防止に伴い入居者の参加は控えているが、吊るし雛を出品し地域の行事に積極的に参加している。	事業所として自治会に加入しており、回覧板を通して地域の情報を入手しています。感染症拡大防止の観点から、地域の行事に参加して交流を図ることは控えています。公民館に吊るし雛を出展した際には、他の方がいない時間を見計らって数名の入居者をお連れし、作品を楽しんでいただくようにしています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、地域の人々に施設で行われている認知症ケアの工夫などを紹介している。地域の人々からの質問には丁寧に回答している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の日頃の様子を書面にて説明をし、入居者の生活をよりよく知っていただけるよう努めている。また、地域の方々の意見を聞き取ることの出来る場としている。	現在は3ヶ月に1回の頻度で、今年度から対面に切り替えて開催しています。メンバーは新羽町連合会・大竹町内会・包括看護師・法人本部長・法人内看護師の参加で、事業所の現状・活動報告を中心に行事の様子を写真と併せて報告し、意見や提案をいただいています。いただいた意見や提案は第三者からの貴重な意見として真摯に捉え、サービス向上に活かしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政よりFAXや郵便などで情報提供を受けている。求められる調査には回答している。事務手続きで疑問点があれば、横浜市の介護事業指導課や港北区の担当者に関わり合いをしている。	横浜市や港北区からの情報提供は法人が主体となっており、法人経由で情報を入手しています。事業所からは事故報告関係や不明点等が生じた際に電話もしくはメールで連絡を取り合っています。ケアプラザとは、運営推進会議に参加いただいている関係で、事業の現状や実情を把握いただけています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で実施している身体拘束防止に関する研修に参加している。職員は入居者に閉塞感を抱かせないようなケアに努めている。玄関については、防犯の観点から施錠をしている。	毎月、法人内（事業部署）で身体拘束防止委員会を開催しており、毎回職員が委員のメンバーとして参加しています。委員会の中で身体拘束の定義や該当する行為などについて話し合っており、委員会に参加した職員は、帰所後に他の職員に伝達研修や資料の回覧を行い、共通認識を図っています。また、年2回身体拘束に関する研修を実施し、身体拘束の定義や理解を深めています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で実施している虐待防止に関する研修に参加している。また虐待に関する職員の意識調査を実施し、職員が適切な知識を得られるよう努めている。	毎月、法人内（事業部署）で身体拘束防止委員会を開催しており、毎回職員が委員のメンバーとして参加しています。委員会の中で高齢者虐待の定義や該当する行為などについて話し合っており、委員会に参加した職員は、帰所後に他の職員に伝達研修や資料の回覧を行い、共通認識を図っています。高齢者虐待防止に関する研修や、虐待の自己チェックも実施し、虐待をしないケアに努めています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で実施している権利擁護に関する制度の研修に参加している。日常生活自立支援事業や成年後見制度が必要と判断される場合は、関係者と相談できるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、重要事項説明書や契約書の内容を一つ一つ理解しやすい表現に言い換えながら説明し理解を求め、疑問点がないか確認を行うよう配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には「意見箱」を設置し、意見を言いやすい環境を設けている。また、運営推進会議では家族の代表者に意見の聞き取りを実施し、運営に反映させている。	契約時に重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について、家族に説明しています。玄関にも意見箱を設置し、意見や要望を表出しやすい環境を整備していますが、手紙や電話、来訪時の近況報告と併せて意見や要望を伺うようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。また、日常的に管理者が職員の意見を聞くように努めている。	月1回のフロア会議では、各委員会の職員から報告・意見を聴く機会を設けています。管理者は日々のコミュニケーションでの関係作りを大切にしていますが、申し送り、連絡ノートなども活用しながら、様々な方法で職員が意見や提案を表出できるようにしています。また、月2回法人内の各部署代表者会議も開催されており、各事業所内の職員から上がった意見や提案について、共有と検討がされています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部には、就業環境について常時相談できる体制が整っている。また、資格取得のサポート体制も整っており、職員のスキルアップへの意欲の向上に努めている。	入職時には、就業規則に基づき、サービス・給与・休暇などの規則や規定について説明しています。就業規則に変更が生じた際は全職員に周知しています。管理者は、リフレッシュ休暇や有給取得を促すなどして、ワークライフバランスにも配慮しています。法人主催の納涼会や忘年会も開催されています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修や隔月での勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し、後輩へ指導する事を促している。	入職時には、法人本部で新人職員を対象とした新人研修を開催し、介護に係わる基礎・実技・知識・法令・倫理に関して学んでいます。その後は、各事業所で管理者または先輩職員によるOJTが行われ、入居者の情報や業務の流れについて指導を受けています。入職後は、月1回法人本部にて研修が開催され、受講した職員は研修レポートを提出し、習熟度を確認すると共に、事業所で伝達研修を行い、他の職員にも情報を共有しています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議では、地域の他グループホームの管理者に委員として参加していただき、交流する機会を設けている。同法人内のグループホームとも情報交換を積極的に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ホームでの生活を具体的に詳しく伝え、より安心感を得られるよう努めている。入居前に入居者本人が見学するよう奨めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する初期の段階では、家族との連絡を密に行い、相談には丁寧に答えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が生活していく上でどのような支援が必要なのか、また家族が何を求めているのかを考慮し、当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを検討し、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む中で身支度・入浴・掃除・食事の支度など、出来る事は入居者に行っていただき、職員は足りない所をサポートするような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者の絆を大切にするために、行事を計画する際には家族の参加と協力を促している。また入居者の受診の際にも家族の付き添いをお願いするなどしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、これまで入居者が生活してきた馴染みの物を持ち込んでいただき、生活空間の中に取り入れている。	馴染みの物については、見学や入居前のインテーク時に使い慣れた物（家具や食器類）を持ち込んで下さいと伝えています。馴染みの方の面会については、家族やキーパーソンに連絡したうえで、了承をいただいた方のみ室内に案内しています。その方宛の封書が届いた際には本人の前で封を開けて渡したり、レクで作成した絵手紙を投函するなどの支援も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場面で、散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わり合える時間を設定している。入居者同士でうまくコミュニケーションが取れない場合は職員が間に入り、より良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の郵便物には一筆添えるなどして、これまでの関係を長く継続できるような関係づくりに配慮している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい料理や行きたい場所など、日々の会話から聞き取る努力をしている。	管理者は「寄り添った介護」を基本方針としており、入居者の「個性・言葉・思い」を受容し、思いや意向の汲み取り及び情報を共有しながら、介護計画に落とし込んだり、行事などに反映させるなどして、思いや意向に沿った支援に努めています。日々の関わりの中で得られた情報や本人が発した言葉は、連絡ノートや事務所内のホワイトボード、口頭でも共有しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望時に、入居者の生活歴や職業歴、出身地、住んでいた場所などの聞き取りをおこなっている。また入居者との会話の中でも、これまでの暮らしに関する情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活動チェック表に、入居者が行った家事・レクリエーション・散歩の距離などを記録して、入居者の暮らしの現状を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者及び家族からの要望や職員からの聞き取りをもとに、一人ひとりの適性に合ったプランを作成している。支援経過の検討を行い、常に入居者にとって適切なプランか検討している。多数の職員が集まるフロア会議で状況確認を行い、職員個々の意見をサービス内容に反映させている。	インテークの情報を基に、初回の介護計画を作成しています。入居後は、1ヶ月間を目安に様子を見ながら情報収集に努め、入居者の状態に応じて随時変更をかけています。毎月のユニット会議時に全員を対象にモニタリングを行い、現状に即した支援内容となっているか確認しています。サービス担当者会議は、計画作成担当者を中心に意見交換を行い、職員の気づきや日々の記録を基に介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに一日の行動を記録している。入居者についての気付いたことなどは、申し送りノートに記入し、職員内で把握し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ職員や管理栄養士に相談し、リハビリの方法や食事摂取困難な方への対応を参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然環境豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の確認を行っている。入居後は、週に1回、カメラリア診療所医師による訪問診療で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。	契約時に事業所の協力医療機関について説明し、本人と家族の希望を確認したうえで、主治医を決めていただくようにしています。事業所の協力医療機関からの訪問診療を受診しています。本部（老健）に看護師が常駐しており、週1回の体調管理の他、急変時は法人の看護師によるオンコール体制も整っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所との医療連携を行っており、医療連携看護師による定期的な入居者の健康管理を行っている。入居者の健康状態については、常時相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を病院関係者に伝えている。また、退院が近くなった時には、家族の許可を得て、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意事項の聞き取りを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については必要に応じて、説明を行っている。	事業所では看取り対応は行っておらず、入居時には、方針に基づき、終末期のあり方について説明しています。主治医の判断の下、重篤が認められた際には、家族等と話し合いの場を設け、改めて意向を確認しています。同法人の介護老人保健施設では看取り介護まで行っていることから、退去後に同法人の介護老人保健施設や他施設への転移を含めた選択肢を提示しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修会に参加し、急変時の対応について知識を高めている。勉強会では救急搬送時の手順の確認や心肺蘇生法の実践を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所の協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では、入居者も参加し、通報・消火・避難誘導の訓練を行っている。	年に2回、夜間想定で訓練を実施しています。災害時の通報、初期消火、入居者参加で避難誘導も行っています。防災訓練時には毎回港北消防署新羽消防出張所の隊員が立ち合っていており、訓練終了後の講評を次の訓練に活かしています。備蓄品は、水や食糧・ヘルメット・懐中電灯・カセットコンロを準備していますが、法人本部でも保管・管理されています。また、BCPも作成しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した対応には、常日頃から心がけ、フロア会議・申し送り等を通じ職員の言葉遣いや接し方について、正しい接遇方法を確認している。	法人の理念にも「尊敬・慈愛・親切」を掲げており、職員は常に念頭に置きながら支援を行っています。管理者は、入居者によって認知症の種類や周辺症状は異なりますが、一人ひとりを受容して接することは、入居者の尊厳を尊重すると同時に、入居者の不安を取り除くことにもなること伝えていきます。法人の接遇委員会に職員が委員として参加し、接遇の重要性を再確認し、職員間で共有しています。接遇チェックも定期的に行っています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時には、入居者の要望に耳を傾け、入居者の自己決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示し、選んでいただく等の工夫を行っている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子から、入居者の好む色や組み合わせを把握し、日常の洋服選びでは、気持ちよく過ごせる着まわしを提案している。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、入居者と職員と一緒にしている。基本の献立はあるが、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が出来るよう配慮している。	法人の管理栄養士が作成するメニューに則り、食材の買い出しから下ごしらえ、配膳、洗い物まで、できることはなるべく職員と行い、食への関心や満足度を高めています。包丁等の刃物の使用も、入居者の能力を把握した上で積極的に取り入れ、残存能力の維持につなげています。事業所では「食事」支援に注力しており、年2回のデリバリーや、不定期で移動パン屋に来ていただいたり、パイキング、手作りおやつ（スイートポテト、ホットケーキ）など、五感を使って食事を楽しんでいただけるようにしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取しにくい入居者には、好みの飲み物の提供や嚥下を理解した形態の工夫をしている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間に、おやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な入居者には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。また月1回歯科衛生士による職員への口腔ケア指導を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りで個々の排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。必要な入居者には昼夜トイレの声かけを行い、羞恥心に配慮しながら排泄を行えるよう支援している。	排泄チェック表への記入や申し送りにより、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めています。職員は時間やタイミングを見計らい声をかけ、トイレでの排泄を促しています。支援が必要な入居者には、夜間も適宜トイレ誘導を行い、排泄の失敗がないように取り組んでいます。排泄や失禁が続いた際には、カンファレンスで支援方法を検討しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・排便効果のあるヨーグルト・冷たい牛乳の摂取など、各入居者に合った方法を提供している。運動の足りない入居者には散歩を促している。それでも改善しない入居者には医師に相談している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間については、入居者の希望に出来るだけ浴えるようにし、個々に応じた入浴支援に努めている。	入浴は週2回以上を基本とし、入居者の希望に応じた支援が行えるよう、毎日、午前午後問わず入浴支援を行っています。入居者や家族からの申し出があれば、同性介助も行うようにしていますが、現在は同性介助を希望される方はいません。季節のゆず湯や菖蒲湯なども取り入れながら、季節感を感じていただけるよう支援しています。入浴後には保湿クリームや乳液を塗布して、保湿にも努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、入居者が過ごしやすい環境作りに努めている。また、居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員が薬の効用を認識できるようにしている。服薬の際は、服薬チェック表への記入を行い、誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力や経験に応じて、食事作り、食事の盛り付け、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など、役割を持てるよう配慮している。将棋の出来る入居者には将棋の対局の場を設けている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下を予防すると共に、季節を実感する機会を提供している。	事業所の周辺は、竹林や畑もあり、自然に囲まれた環境を活かし、天気の良い日には近隣へ散歩に出かけ、入居者の健康促進と共に季節を実感できるよう支援しています。現在は感染症拡大防止のため、外出を自粛していますが、今後は対策をしながら買い物や外食なども再開したいと考えています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は基本的に施設で預かっているが、入居者の希望と、家族の了解があった場合には、入居者の管理能力に応じて所持できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に入居者から電話の希望があった場合や入居者が手紙を書きたいと希望があった際には、職員が支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼に入居者と職員で掃除を行い清潔の維持に努めている。また、カーテンを活用するなどして、時間や気候に即した外光管理を行っている。また、入居者が快適に過ごせるよう、エアコンや扇風機を利用した温度管理を行っている。	共用空間は皆で過ごすことから、毎日入居者と一緒に清掃を行い、換気や室温・湿度の管理は職員によって行われ、快適に過ごせる環境を整えています。また、入居者の動線の妨げにならないよう整理整頓を心がけ、安心かつ安全に過ごせるよう、家具の配置が行われています。リビングには入居者の作品や季節の装飾も施され、観賞魚を飼育しており、入居者を和ませています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子やソファを使い、入居者が自由に過ごしている。共有部分でも一人になれる場があり、入居者の居場所の工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた調度品や家具、家族の写真などを持ち込んでいただき、今までの生活とのつながりを身近に感じることが出来るよう配慮している。	エアコン・クローゼット・カーテン・ベッドは備え付けとして完備されており、入居時には、それ以外に必要な家具や日用品、調度品などを持ち込んでいただくよう伝えていきます。入居者によって持ち込まれている物は様々ですが、各々が落ち着いて過ごせる配慮がされています。介護度の変化や認知機能の低下によっては、家具などの配置を変えるなどして、安全面にも考慮しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全に生活できるようにしてある。転倒の危険性が高い入居者には職員が歩行の介助を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

高齢者グループホーム
カメラア式番館

作成日

令和5年12月6日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	入居者個々の人格を尊重し、敬意を持った声掛けや対応をする必要がある。	入居者に対して適切な対応をすることが出来る。	職員が接遇委員会が行う研修会に参加し、適切な声掛け対応について学び、ホームの中でも接遇について職員同士が意識し合える環境を作る。	2023年4月1日 ～2024年3月31日
2	35	火災や災害時、迅速に入居者を避難誘導させるためのスキルが必要である。	職員は冷静に入居者を避難させる事ができ、適切に動くことが出来る。	様々なケースの防災訓練を実施し、状況に応じた対応を身につける。	2023年4月1日 ～2024年3月31日

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	高齢者グループホームカメリア式番館
ユニット名	B棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基づきホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人ひとりの個性を大切にしたいサービスを行なっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入をしている。町内会の催しでは、コロナ禍のもと入居者の参加は控えているが、吊るし雛を出品し地域の行事に積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、地域の人々に施設で行われている認知症ケアの工夫などを紹介している。地域の人々からの質問には丁寧に回答している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の日頃の様子を書面にて説明をし、入居者の生活をよりよく知っていただけるよう努めている。また、地域の方々の意見を聞き取ることの出来る場としている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政よりFAXや郵便などで情報提供を受けている。求められる調査には回答している。事務手続きで疑問点があれば、横浜市の介護事業指導課や港北区の担当者に問い合わせをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で実施している身体拘束防止に関する研修に参加している。職員は入居者に閉塞感を抱かせないようなケアに努めている。玄関については、防犯の観点から施錠をしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で実施している虐待防止に関する研修に参加している。また虐待に関する職員の意識調査を実施し、職員が適切な知識を得られるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で実施している権利擁護に関する制度の研修に参加している。日常生活自立支援事業や成年後見制度が必要と判断される場合は、関係者と相談できるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、重要事項説明書や契約書の内容を一つ一つ理解しやすい表現に言い換えながら説明し理解を求め、疑問点がないか確認を行うよう配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には「意見箱」を設置し、意見を言いやすい環境を設けている。また、運営推進会議では家族の代表者に意見の聞き取りを実施し、運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。また、日常的に管理者が職員の意見を聞くように努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部には、就業環境について常時相談できる体制が整っている。また、資格取得のサポート体制も整っており、職員のスキルアップへの意欲の向上に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修や隔月での勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し、後輩へ指導する事を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議では、地域の他グループホームの管理者に委員として参加していただき、交流する機会を設けている。同法人内のグループホームとも情報交換を積極的に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ホームでの生活を具体的に詳しく伝え、より安心感を得られるよう努めている。入居前に入居者本人が見学するよう奨めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する初期の段階では、家族との連絡を密に行い、相談には丁寧に答えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が生活していく上でどのような支援が必要なのか、また家族が何を求めているのかを考慮し、当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを検討し、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む中で身支度・入浴・掃除・食事の支度など、出来る事は入居者に行っていたり、職員は足りない所をサポートするような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者の絆を大切にするために、行事を計画する際には家族の参加と協力を促している。また入居者の受診の際にも家族の付き添いをお願いするなどしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、これまで入居者が生活してきた馴染の物を持込んでいただき、生活空間の中に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場面で、散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わり合える時間を設定している。入居者同士でうまくコミュニケーションが取れない場合は職員が間に入り、より良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の郵便物には一筆添えるなどして、今までの関係を長く継続できるような関係づくりに配慮している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい料理や行きたい場所など、日々の会話から聞き取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望時に、入居者の生活歴や職業歴、出身地、住んでいた場所などの聞き取りをおこなっている。また入居者との会話の中でも、これまでの暮らしに関する情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活動チェック表に、入居者が行った家事・レクリエーション・散歩の距離などを記録して、入居者の暮らしの現状を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者及び家族からの要望や職員からの聞き取りをもとに、一人ひとりの適性に合ったプランを作成している。支援経過の検討を行い、常に入居者にとって適切なプランか検討している。多数の職員が集まるフロア会議で状況確認を行い、職員個々の意見をサービス内容に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに一日の行動を記録している。入居者についての気付いたことなどは、申し送りノートに記入し、職員内で把握し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ職員や管理栄養士に相談し、リハビリの方法や食事摂取困難な方への対応を参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然環境豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の確認を行っている。入居後は、週に1回、カメラリア診療所医師による訪問診療で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所との医療連携を行っており、医療連携看護師による定期的な入居者の健康管理を行っている。入居者の健康状態については、常時相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を病院関係者に伝えている。また、退院が近くなった時には、家族の許可を得て、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意事項の聞き取りを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については必要に応じて、説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修会に参加し、急変時の対応について知識を高めている。勉強会では救急搬送時の手順の確認や心肺蘇生法の実践を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所の協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では、入居者も参加し、通報・消火・避難誘導の訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した対応には、常日頃から心がけ、フロア会議・申し送り等を通じ職員の言葉遣いや接し方について、正しい接遇方法を確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時には、入居者の要望に耳を傾け、入居者の自己決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示し、選んでいただく等の工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子から、入居者の好む色や組み合わせを把握し、日常の洋服選びでは、気持ちよく過ごせる着まわしを提案している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、入居者と職員が一緒に行っている。基本の献立はあるが、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が出来るよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取しにくい入居者には、好みの飲み物の提供や嚥下を理解した形態の工夫をしている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間に、おやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な入居者には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。また月1回歯科衛生士による職員への口腔ケア指導を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りで個々の排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。必要な入居者には昼夜トイレの声かけを行い、羞恥心に配慮しながら排泄を行えるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・排便効果のあるヨーグルト・冷たい牛乳の摂取など、各入居者に合った方法を提供している。運動の足りない入居者には散歩を促している。それでも改善しない入居者には医師に相談している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間については、入居者の希望に出来るだけ浴えるようにし、個々に応じた入浴支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、入居者が過ごしやすい環境作りに努めている。また、居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員が薬の効用を認識できるようにしている。服薬の際は、服薬チェック表への記入を行い、誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力や経験に応じて、食事作り、食事の盛り付け、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たみ、掃除など、役割を持てるよう配慮している。将棋の出来る入居者には将棋の対局の場を設けている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下を予防すると共に、季節を実感する機会を提供している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は基本的に施設で預かっているが、入居者の希望と、家族の了解があった場合には、入居者の管理能力に応じて所持できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に入居者から電話の希望があった場合や入居者が手紙を書きたいと希望があった際には、職員が支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼に入居者と職員で掃除を行い清潔の維持に努めている。また、カーテンを活用するなどして、時間や気候に即した外光管理を行っている。また、入居者が快適に過ごせるよう、エアコンや扇風機を利用した温度管理を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子やソファを使い、入居者が自由に過ごしている。共有部分でも一人になれる場があり、入居者の居場所の工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた調度品や家具、家族の写真などを持ち込んでいただき、今までの生活とのつながりを身近に感じることが出来るよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全に生活できるようにしてある。転倒の危険性が高い入居者には職員が歩行の介助を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

高齢者グループホーム
カメラ式番館

作成日

令和5年12月6日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	入居者個々の人格を尊重し、敬意を持った声掛けや対応をする必要がある。	入居者に対して適切な対応をすることが出来る。	職員が接遇委員会が行う研修会に参加し、適切な声掛け対応について学び、ホームの中でも接遇について職員同士が意識し合える環境を作る。	2023年4月1日 ～2024年3月31日
2	35	火災や災害時、迅速に入居者を避難誘導させるためのスキルが必要である。	職員は冷静に入居者を避難させる事ができ、適切に動くことが出来る。	様々なケースの防災訓練を実施し、状況に応じた対応を身につける。	2023年4月1日 ～2024年3月31日

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。